発　　行　高知市市民活動サポートセンター
企画・編集　特定非営利活動法人 NPO高知市民会議

公益信託高知市まちづくりファンドニュース

まちファン

16号
2011年3月31日

高知市のまちづくりに望むこと

高知市のまちづくりの助成にあたっての
テーマの一番目に＜自然環境の保全＞があります。

そこで思い出すのは、かるぽーとが建設される時、
工事現場に張り巡らされている塀に、子どもたちの絵が
一面、張り出されていたことです。

テーマは未来の高知市で、どの絵も子どもらしいタッチで
躍っていましたが、そこには緑の草も、
夏の暑さを和らげ、そよ風を送ってくれる木陰も、
CO2吸収と酸素を恵んでくれる森も、
描き出されてはいませんでした。

どの絵も、ロケットに高速カーやバス、地下鉄など、
鉄色の乗り物だけでした。
これが高知の未来なのか、と愕然としたことを思い出します。

このファンドでも、自然環境の保全を、まちづくりの重要な
応募テーマに掲げた団体が皆無に近いのは、なぜでしょうか。

それでも今年、市内のある建設現場の塀に、
同じように子どもたちの絵が張り巡らされ、
そこには緑あふれる森と、豊かな自然に覆われた
高知のまちが生き生きと描かれていて感動しました。

子どもたちに夢を与え、実現できるまちづくりを
テーマとした活動に期待しています。

目　次

公益信託 高知市まちづくりファンド
2010年度ソフトコース中間発表会
中間発表会の流れ　2
中間発表会プレゼンテーション
「まちづくりはじめの一歩」コース　2
「まちづくり一歩前へ」コース　3
2010年度ハードコース第2次公開審査会
第2次公開審査会の流れ　5
第2次公開審査会プレゼンテーション
「まちづくり大きな一歩（ソフトからハードへ）」コース　5
質疑応答・コメント　6
運営委員の紹介　6
2010年度ソフトコース中間発表会・
2010年度ハードコース第2次公開審査会を終えて　7
退任のあいさつ　7
公益信託「高知市まちづくりファンド」とは／今後の予定　8

公益信託 高知市まちづくりファンド

2010年度ソフトコース　中間発表会

中間発表会の流れ

2011年1月29日（土）、「公益信託 高知市まちづくりファンド」中間発表会が開催されました。 参加者（応募団体・一般・関係者）は約80名。2010年7月25日（日）開催の公開審査会において助成決定を受けた９団体が、事業の進捗状況を発表しました。意見交流会では、和やかな雰囲気の中、さまざまな意見が飛び交いました。

1 プレゼンテーション

助成先団体が事業の報告を模造紙１枚にまとめ、発表（3分）。参加者に、各事業についての良い点・質問・提案・その他の意見を、付せんに書いてもらう。

2 付せん貼りタイム

記入済みの付せんを、各団体が発表で用いた模造紙のところに貼ってもらう。

3 意見交流

運営委員が貼られた付せんの内容を団体ごとに紹介し、参加者との意見交流を実施。

「まちづくりはじめの一歩」コース　●プレゼンテーション●

GROUP 1 さえんば活性化隊

さえんば商店街を活性化し、にぎわいのある街作りと商店街の自立を目指す

当初の予定では、来楽座を使用して、商店街の人たちと交流を深めようということだったが、途中で「半平太まつりを盛り上げよう」という活動を中心に切り替えた。毎週土曜に菜園場にある大豊町農産品直販店にて、手伝いをするようになったので、そこで商店街の人たちと交流を深めている。これからは、来楽座を使用しながら、商店街の人たちと、もっと交流を深めていき、来楽座での企画を実施していきたい。一過性のものにならないために、 活動できるメンバーを探していきたい。

VOICE

- 同じ学生の立場で、地域の活性化に取り組んでいる姿に刺激を受けた。
- 地域の中に若い力が入るのは大きな励みになりますね。
- 県内外の学生に地元商店街を知ってもらう、きっかけ作りが良い。
- 活動が地域の方に少しずつ広がっているところが良い。
- 商店街の活性化のために動くという思いが素晴らしい。

GROUP 2 Sunday Market Supporters

若者による土佐の日曜市の活性化に向けた取り組み

休憩所スペースは、現在休憩所として機能していないが、観光案内として、観光客とコミュニケーションできる場になっている。 体験ツアーは、年に２回行っている。 訪問ツアーは、現在、大豊で原木椎茸の菌を埋めて、販売するという活動をしている。エコ高知は、年末までやっていたが、最近できていない。販売の手伝いなど、出店者サポートをしている。また、農作業の依頼を受けている。今後は、商品開発などにつなげていけたらと思っている。

VOICE

- 会話がすべてのはじまりなので良いと思います。そこから自分たちが思うサポートに繋げて下さい。
- 他の大学生や専門学校生に声をかけ人数を増やしては？
- いきなり、いろいろはできないけど、とにかく一歩ずつ確実に踏み出すことが大事ですね。応援しています。
- 日曜市という魅力あふれる場をテーマにしたのが良い。
- 観光客ともコミュニケーションできて良いと思う。

「まちづくり一歩前へ」コース

○プレゼンテーション○

GROUP 1 北山の原生林を考える会

北山の原生林を含む貴重な自然を未来に繋げるための学習の場にしよう

原生林内の山の神前で

歩道づくりは地区の人が中心にやってくれた。休み場づくりも２カ所ででき、真竹も130本切った。現地検討会では愛宕中学校の先生たちと、これからの相談をしている。竹メダルを作り、子どもに非常に好評。樹木にラベルを入れたが、カラスや風でなくなるので、補強をした。植生や地質の研修会の講師を現在、探している。道しるべと説明板の製作、企業団体名を付けた道しるべ、山で遊べて小鳥もたくさんいる北山で勉強もできる子どもの遊び場づくりを検討中である。

VOICE

- いろいろな世代が交流できそうで楽しそうです。
- 子どもの遊び場ができれば、自然と触れ合える良いところになると思う。
- 真竹から守ることから始まって、たくさんのしたいことが出て来たので継続してほしい。
- 活動が着々と進んでいるようでいいですね！
- どの地域においても自然を守ることは重要だと思うので、活動を続けていってほしい。

GROUP 2 高知県フェニックス親の会

障がい児（者）の訓練会の事を地域に広めよう

動作法を中心にさまざまな向上を図り、子どもたちの意識を高め、今後の地域社会の活性化を促している。今回初めて、障がい児（者）ボランティアによる参加型の体験講座に取り組んだ。各学校関係者の協力により、たくさんのボランティアが参加してくれた。今回、新聞やラジオに出演したり、寄付金を頂いたり、各学校で学生ボランティアを紹介してくれたりするようになった。これからの活動計画は、引き続き、今まで通りのことと、今回、好評だった参加型の行事を６月に予定している。

VOICE

- とても共感できる活動だと思います。継続して頑張ってください。
- ボランティアが増えたのは、活動の意義や必要性が認知されてきたのだと思います。
- ボランティアや寄付等の自立に向けたステップを踏んでいるのが良い。
- ″参加型″というのが、とても魅力的だと感じました。
- 知識だけでなく実技を教えているのは良いと思います。

GROUP 3 菜園場商店街活性化委員会

頑張ろう菜園場（あの時の賑わいを取り戻したい）

①横堀公園の清掃・整備。植栽、樹木の伐採を拡大し、観光地的な整備を行い、武市半平太と妻・富子をしのぶ夫婦石と若者向けにラブストーンを設置したところ、来訪者等から喜ばれている。②第２回半平太まつり。たくさんの協力のもと、約1,000名の来訪があった。③歴史マップの配布。案内文とセットで、多くの部数を発行した。④歴史講演と史跡めぐり。40名くらいの参加者が集まった。⑤エンバサの通貨券の発行。協力者等に配布し、一定の効果を確認している。

VOICE

- 活動内容が分かりやすかったです。
- 公園清掃は大切だと思うので、続けていってください。
- ″ラブストーン″は、若者にとって興味深いのではないか。
- 清掃だけでなく植栽なども住民とやれば、住民の愛着が湧いて活動が継続できると思います。
- さえんばの歴史や半平太まつりについて、知らない人にPR（チラシや広報）をしてほしい。

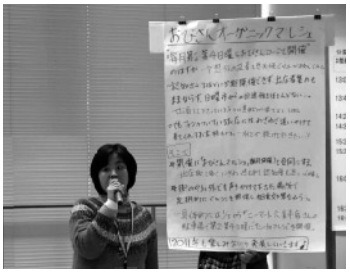
GROUP 4 プロジェクトH
大好きな高知を勉強しなおそう！

専門家から話を聞く勉強会と、テーマを決めて自慢トーク交流会を展開している。8月、自慢トーク交流会。9月、勉強会。室戸ジオパークの秘密。ガイドには、地質専門博士の柴田さんと室戸ジオパークのガイド。10月、勉強会。竹林寺で地酒と皿鉢料理。ゲストは高知酒造の蔵元の松村さん。11月、自慢トーク交流会。12月、勉強会。高知市を歩こう。ガイドには『高知城を歩く』の筆者・岩﨑さん。勉強会には定員を上回る参加で、高知をもっと知りたいと思っている人が多いことに気づいた。

VOICE

- テーマやねらいが、おもしろかったです！ぜひ参加してみたいな～と思いました。
- 高知には取り上げるべき事柄がとても多く、それを学び直す取り組みは、とても良いと思いました。
- 自慢をするというのは誇りを持つこと。それをプッシュする企画はとても素晴らしいと思います。
- 活動内容が楽しくて分かりやすかったです。
- 自慢トークというネーミングが良いと思います。

GROUP 5 おびさんオーガニックマルシェ実行委員会
みんなが"つながる"オーガニックなまちの日曜市



毎月第2、第4日曜日に、おびさんロードで開催していたが、猛暑と悪天候で、1回しか開催できなかった。活動を続けていきたいと、方向性を探った中、隔月1回開催されている「おびさんマルシェ」と合同開催した。また、サニーマート六泉寺店の駐車場で、第2、第4土曜日に、「サニーdeマルシェ」を開催することになった。直接、生産者が来るマルシェは好評である。まちの中だけでなく、さまざまな場所で開催しながら、新しいコミュニケーションが生まれる活動をしていきたい。

VOICE

- 活動に工夫がこらされていて広まりがあり、今後に期待が持てます。
- 参加者の意欲向上に、臨機応変に対応している所が良い。
- 天候等での中止から「サニーdeマルシェ」を開くなど、うまく対応している。
- "オーガニック×地域"は、地域にしかできない取り組みで良いなと思いました。
- 企業との連携は良いですね。一歩前進。

GROUP 6 チャイルドラインこうち
チャイルドラインこうち「電話の受け手」ボランティア養成研修会

第2期養成講座を9月から12月まで計13回開催。2期の参加者が50名だったが、実際にスタッフとして活動する人は10名だった。約9万人の子どもたちにカードを配布。先生たちにも理解してもらうためにリーフレットを配布。企業へ出向き、話しに行くと気持ちを理解してくれ、寄付をいただけるようになった。電話の開設は、火曜日と第2、第4土曜日。現在のスタッフは、実働20名くらいだが、今後2期生も一緒になって活動しながら開設日を増やしていきたい。

VOICE

- 子どもたちの心の声をしっかり受け止めて元気になれることは素晴らしいですね。今後も頑張って下さい。
- 企業等への働きかけを行って支援を得るところが良い。
- 潜在的なニーズが多い活動だと思います。子どもたちの健やかな未来につながる取り組み、素晴らしいですね。
- 子どもは誰かに話を聞いて欲しいと思います。とても良い企画だと思います。
- 着実に活動しているのがわかります。

GROUP 7 高知ユネスコ
～貧困ってなんだろう？～

出前授業とサポートスクールを開催。高知女子大学の学園祭、NPOフォーラム、ソーレまつりに参加し、新たな理解者や賛同者を得た。学校に通いながら出前授業やサポートスクールをしているが、授業対象者と、自分たちの忙しさが相まって、活動が思うようにいかない。後輩や、ほかの大学やサークルとの協働が、必要かと思っている。ユネスコの認知度を上げていくために、文字だけでなく、視覚的にも伝えたい。当初は小中学生対象だったが中高生に変えようと考えている。

VOICE

- 貧困を嘆くのではなくサポートスクールという解決の道をつけているのが素晴らしい。
- 後継者を集めたり育てる事は大変ですが、自分たちが楽しみながら活動するのが人を集めるコツです。
- こうしたまちづくりの活動を若い女性が行っているのが良いと思った。
- 何回も小・中学校でやっていけば、それが宣伝になっていくと思います。

公益信託 高知市まちづくりファンド

2010年度ハードコース　第２次公開審査会

第２次公開審査会の流れ

2010年７月25日（日）開催の第1次公開審査を1団体が通過。2011年１月29日（土）に開催された第２次公開審査会には、応募団体・一般・関係者あわせて約80名の参加があり、審査の結果、助成が決定しました。

1 プレゼンテーション

応募団体が事業内容を模造紙に記載し、10分以内でプレゼンテーションを行った後、20分以内で質疑応答。

2 一次判断

各運営委員が審査基準の項目ごとにA、B、Cの３段階で評価。
※A、B、Cについては下表参照

3 質　疑

審査基準の項目ごとに質疑応答。

4 最終判断

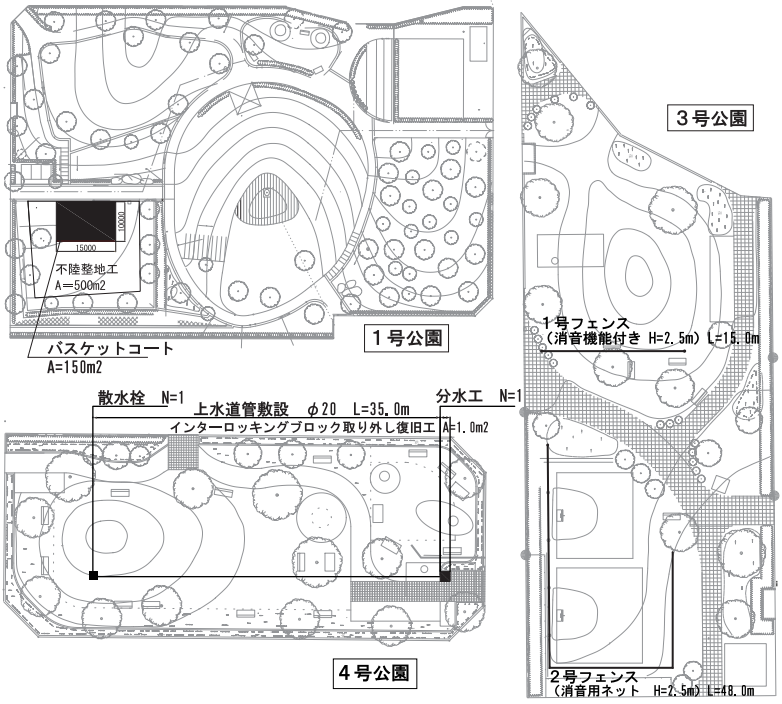
各運営委員が助成するかどうかを最終判断。

「まちづくり大きな一歩（ソフトからハードへ）」コース　プレゼンテーション

活動テーマ　**子供たちが安心して遊べる公園に！誇れるふるさとにしよう！**

GROUP　**蒔絵台町内会**

地域で開催した『第１回公園を考える会』では、大人から子どもまで参加があり、４つの公園の性格づけ、現在の利用状況、こんな公園にしたいという希望を話し合った。『第２回公園を考える会』では、公園の位置づけと、その利用の仕方を整理し、専門家にも参加してもらい、費用、維持管理、可能性について検討した。日をあらためて、役員を中心に、高知市みどり課にも来てもらい、現地確認を行った。そして、公園の整備案をまとめて臨時総会を行い、審議をした。１号公園にはバスケットコートが２つあるが、地面の土がでこぼこしていて、水はけが悪く、しばらくたたないと水が乾かない状態なので、ここを整備する。３号公園でボール遊びをしているが、フェンスが金網なので、ボールが当たると音がするため、内側に音のしないネットを張る。そうすることにより近所の住人も快適に過ごせる。また、ボール遊びのスペースとの境にフェンスをすることにより、小さな子どもたちが北側で遊べるようになる。４号公園は蒔絵台の玄関口なので、花をたくさん植えて、きれいに整え、憩いの場にしたい。花に水をやるために、散水設備を整備する。そこで花を見ながらご飯を食べたり、小さな子どもでも遊べる公園になる。緑があり、みんなが楽しめて、より子どもから大人までが楽しめる素敵なまちをこれからもつくっていきたい。



審査結果表

●一次判断

審査基準		公益性	地域まちづくりへの発展性	資金等の的確性	創意工夫	実現性	活動に対する意欲
A	評価できる	●●●●●●●●●●	●●●●●●●	●●	●●	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
B	もう少し話を聞きたい		●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●		
C	社会的に意義はある活動だが、助成趣旨には馴染みにくい						

質疑応答

●最終判断

助成すべき	助成しない
●●●●●●●●●●	

（助成申請額300万円）

質疑応答・コメント

質　問　３号公園での球技は、ちょっと無理があるのではないか。１号公園で球技ができるよう考えた方がいいのでは。

団　体　１号公園には、景観上高いネット、フェンス、防球用のネットを立てないでおこうという意見が多くあった。唯一、防球ネットが付けられているのが３号公園。有効な運動公園にはならないが、狭いなりに子どもたちが工夫して遊びをつくっている。

質　問　地域で話をしていく中での、子どもたちの視点が新鮮だった。大人たちは、どう捉えているか。

団　体　大人は、２号公園は大人の目に付きにくく、いい雰囲気ではないイメージだったが、子どもたちにとって、この４つの公園の中で２号公園が一番楽しいと、大人と子どもの意識は全く違っていた。まち、公園をつくっていくときに、子ども、大人、お年寄りの意見を聞くことがすごく大事ということに気付かされた。

質　問　団地の住民が年齢を重ねていくとき、この整備のままでいいのか。子どもにシフトし過ぎではないか。

団　体　子どもたちをどう育てていくかによって、まちは決まっていく。子どもたちを育てるいい環境をつくるのが、自分たちの役目。子どもたちの５年後、10年後の先を考えてまちをつくる。住民の話を聞いて、考慮しながら修正していく。

質　問　整備後、地域のコミュニティは、どういうふうに変わると想定しているのか。

団　体　まだ新しい町内会なので大人同士のつながりもそんなになく、将来を考えたときに不安があった。今回の話し合いのプロセスの中で、子どもたちだけでなく、大人たちとの付き合いもできてきた。

質　問　見積もりを見ると、舗装費が安いように思うが、大丈夫か。

団　体　一般的な見積もりからいうと少し安くなっているが、これでやってもらえるとのこと。

コメント　何十年か経つと、住人も変わっていく。子どもが多いとはいえ、高齢者もいると思うので、いろいろな世代の人が出てきやすいような場所となることを望みたい。「これが蒔絵台の公園だ」というような、他のところにはないものになると思う。

運営委員の紹介

運営委員長
卯月　盛夫
（早稲田大学教授）

蒔絵台の３つの公園が、子どもたちのワークショップをふまえて、今回、住民の手によって再整備されることは、とても素晴らしいことです。コミュニティの問題が指摘される中で、公園の利用や管理を通じて、地域の人のつながりが強くなる先駆的モデルとして、大きく発展することを期待しています。

副運営委員長
増田　和剛
（高知中・高等学校教諭）

ハード事業の大きな役割は、活動に必要な事業を瞬間として捉えるのか、将来的な展望として捉えるかによって、そのまちの景観（財産）を活かせるかどうか決まります。そもそも、まちづくりは、ものづくり活動ではなく、その土地の財産を活かしてこそ存在できる活動であると考えます。

運営委員
産田　節雄
（元高知市都市整備部長）

今回、蒔絵台地区で、公園の整備において地域がまとまって取り組まれることは、素晴らしいことだと思います。「まちづくり」で一番大事なことは、継続性であると考えております。今回の公園整備をきっかけに継続性のある活動をしていただくよう期待しています。

運営委員
川﨑　敬子
（グラフィックデザイナー）

ファンドをきっかけにワークショップを重ねて、地域の大人や子どもが話し合い、知恵を出し合えたことは、新しいまちにとって今後につながる貴重な体験だったと思います。自然に恵まれた、とても気持ちのいい公園の良さを維持していってもらいたいと思います。

運営委員
四宮　成晴
（四宮計画事務所）

ハードコースに手を挙げた〝蒔絵台町内会〟は、１次審査から２次審査までの短い期間でいろいろな人たちを巻き込みながら成長を遂げました。なによりも、モノづくりを起点に地域づくりにつなげていく力が多くの心に響き、更なる協働の輪の広がる様相で心踊ります。いやはや参りました。

運営委員
新藤　こずえ
（高知女子大学助教）

ハードコースでは、話し合いのプロセスの大切さを感じました。話し合いのプロセスそのものが、まちづくりのプロセスになっているのではないかと思います。ファンドの申請をきっかけに、日々の活動を仲間と振り返り、地域を見つめなおす良い機会にしていただければと思います。

運営委員
堀　洋子
（（社）高知県建築士会）

市内の各地区でコミュニティの再生が必要とされる今、新しい開発団地で地域内の3カ所の公園整備をすることでコミュニティを図る事業です。老若男女、子どもたちも同じテーブルに着いての話し合い、地区の合意を基に進められています。若年世代がこの地域で年を重ねた未来も考慮し、継続性のあるコミュニティに育つように願っています。

運営委員
宮地　貴嗣
（ラ・ヴィータ　宮地電機㈱）

蒔絵台の皆さんからは、自分たちのまちを自分たちの力で良くしようとする熱い気持ちが伝わりました。想いだけではなく、自分たちで案を作り、何度も会議をし、実現までこぎつけた努力に敬意を表します。このような動きが高知市全体に広がることを期待したいです。

運営委員
森本　智香
（えほんの店「コッコ・サン」）

「子育て世代がまちを変える」。まさにお手本のような活動でした。新興住宅地は、まちそのものが、人の一生と重なっているようにも思います。まちをどのようにデザインするのかは、まさに、生き方の問題。多様な価値観を受け入れる視点の重要さを感じた審査でした。

運営委員
山崎　三郎
（高知県自然観察指導員）

まちづくりの主人公は住民であり、まず住民自らが実現に向けて汗を流すことだと思います。花壇までの水道管設置や、市の遊具供与などは、住民の交流や自主性を損わないかと心配します。また、今の、自然が残された公園は、まわりの羨望の的ですが、この自然こそが子どもたちを育てている、ということを基本に発展させてほしいと思います。

二〇一〇年度ソフトコース中間発表・二〇一〇年度ハードコース第二次公開審査会を終えて

運営委員長　卯月　盛夫
（早稲田大学教授）

この四色のポストイットがシートに貼り切れないほど貼られている風景は、とても壮観ですね。特に「Sunday Market Supporters」、「北山の原生林を考える会」、「高知県フェニックス親の会」などは、「良いところ」というピンクのカードで溢れんばかりです。「同じ仲間がまちづくりをやっているので応援したい」、「こういう良いことは、同じ活動をするメンバーとして僕らも学びたい」、そういう姿勢がピンクのカードの中にたくさん込められていて、本当に高知は素晴らしいと思います。

ソフトコースでは、「一歩前へ」コースの「高知県フェニックス親の会」が3回目の助成事業となりますね。この二団体の発表は、とてもうまかったし、きちんと質問に回答していて、「成長したなぁ」と嬉しく思いました。この二団体の活動は、身体と心というアプローチの仕方は違うけれど、高知の子どもたちのことを真剣に取り上げていて、着実な歩みを評価したいと思います。

また、「チャイルドラインこうち」の発表で、企業からの寄付は、必ずしもお金という形だけではないということを学びました。不景気な状況では、企業に寄付の協力を仰いでも難しいことが多いと思います。私たちは企業の日常的な取り組みの中で、無理なくできる協力や支援の方法がないかを模索し、提案していくことが大事だと思いました。

今、日本では、タイガーマスク現象を受けて、国も寄付税制を本格的に検討し始めたようです。個人も企業も「社会的に何かしてあげたい」という気持ちはあるけれど、具体的に何をしたらいいか分からない。そういうところに、市民活動をしている方が具体的に提案を持っていけばよいと思います。

今年度、学生による活動は、ソフトコースの三団体でした。これまでも「高知の活動は、学生が多いことが魅力的だ」と申し上げてきましたが、活動の継続性という点で問題がありました。もし、高知の学生に、まちの現場へ出ていこうという意識があるのであれば、高知大学、高知女子大学、高知工科大学が、大学の壁を越えて、何か共通のネットワークのコンソーシアムみたいなものをつくって、発信してみてはいかがでしょうか。

二〇〇四・二〇〇五年度の助成先団体であった「こうち学生ボランティアネットワーク『ボラの会』」が、ボランティアが必要な団体と、ボランティア希望の学生を結んだ情報発信をしていました。サポートセンターが少し支援する形で、これが復活すれば、高知らしい活動に育っていくのではないかと期待します。

ハードコースは、ソフトコースできちんと活動をしてきた団体に、物的な環境を整えることで、その活動を更に拡大させていくためにつくったコースです。「蒔絵台町内会」は、ソフトコースの助成はもらっていないけれど、これまで町内会をつくったり、公園でのイベントを行ったりして、実に地道な活動をしてきました。

今回の公園は完全なる公共事業で、「そんなの、全部、市がやればいいじゃないか」という意見もないわけではありませんが、日本全国、市役所がやれること、公共がやれることは狭められてきています。行政は最小限の整備を道路や公園でやろうという時代ですので、それに加えて地域の住民の方がより高いコミュニティの醸成を望む場合は、自ら助成金を獲得してきて、その意志の中で公共空間を利用、活用していくということが求められている時代です。そういった「蒔絵台町内会」の方々の強い意欲、熱意に対して、助成金の趣旨にふさわしいと、私たち運営委員は判断した次第です。審査では、いろいろときついことを申し上げましたが、まちづくりというのは、こういうやりとりの中で、どういうふうに考えたらいいのか、どういうことをめざすのかということを確認する行為だということをご理解いただきたいと思います。

退任のあいさつ

2011年3月31日（木）をもちまして、3名の運営委員が退任されます。より良いまちづくりをめざして、応募団体への貴重な助言をいただきました。ファンド運営にご尽力くださり、ありがとうございました。

2007～2010年度
産田節雄
（元高知市都市整備部長）

運営委員になり、「まちづくり」について、いろいろな方が各種の視点で取り組まれていることに感動しました。今、少子高齢化社会や成熟社会化など、世の中が大きく変わろうとしていますが、「まちづくり」は継続性が大事だと思っています。ファンドについて資金の問題など多々あろうかと思いますが、いろいろ工夫した取り組みにより継続していただきたいと思います。公開審査会できついことも言いましたが、お許しを頂きたいと思います。４年間の短い期間でしたが、公開審査会など、オープンな場所で物事が決まっていくことに「まちづくり」の原点を感じた次第です。

2007～2010年度
森本智香
（えほんの店「コッコ・サン」）

審査員に就任当初、忌憚のない意見がどんどん出される公開審査はとても厳しい方法だと感じました。しかし、回を重ねるうちに、そうではなく、意見のひとつひとつが応援メッセージだと気づき、私自身、審査を楽しむことができるようになってきました。また、報告会もとても楽しいものでした。発表者の皆さんの成長が実感できましたし、他の発表者との出会いの場となっていることも魅力的でした。４年間の審査を通じて、なによりも、私自身が成長させていただいたと思います。ありがとうございました。これからも素晴らしい活動が生まれることを期待いたします。

2009～2010年度
山崎三郎
（高知県自然観察指導員）

まちづくりファンドでの活動は１期だけでしたが、新鮮な発見や勉強になること、そして新しい出会いなどがたくさんあり、とても感謝しています。しかし、認識不足だったことは、この会の運営方法をよく知らなかったことから、高知市のまちづくりなので、まちの緑化や近郊の里山の保全、自然環境の再生などに、市や関係団体、住民のみなさんのお手伝いが少しでもできればと思っていたことです。とはいえ、合併により大きくなった中山間地帯での過疎化やシカなど鳥獣被害は深刻で、私たち市民の水やライフラインの確保、自然と共存した農林業振興は緊急の課題です。自然環境保全をまちづくりの重要なテーマに位置づけたファンドのさらなる発展を祈っています。

公益信託「高知市まちづくりファンド」とは

公益信託「高知市まちづくりファンド」は、「市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例」に基づき、まちづくり活動団体への助成を目的に、高知市が四国銀行に3,000万円を出捐(しゅつえん)して創設しました。助成先は公開審査会で決定し、透明性の確保とともに、市民同士の交流や、まちづくりの学びの場となることを目的としています。多くの人にまちづくりに興味をもってもらい、まちづくりに参加するきっかけとなるような運営をめざしています。

「まちづくりはじめの一歩」コース

まちづくりへの参加の第一歩を踏み出そうとしている市民団体、あるいは活動を始めているが、まだ定着していない市民団体の活動を支援します。

助成金額	上限5万円
審査方法	書類審査で助成先を決定します。 助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます。

「まちづくり一歩前へ」コース

市民団体が継続して行うまちづくり活動を支援しています。

助成金額	活動事業費の$\frac{3}{4}$以内で、上限30万円
審査方法	公開審査会において、活動の内容について発表をしていただき、公開審査で助成先を決定します。

お問い合せ先:高知市市民活動サポートセンター　TEL 088-820-1540

「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース

高知を住みよいまち、豊かな地域社会にしていくために行うまちづくり整備事業を支援します。

助成金額	上限300万円
審査方法	第1次公開審査会において、整備の内容について発表をしていただきます。審査通過団体には、計画を具体化するための費用として10万円を限度に助成。第2次審査書類提出、現地調査後、第2次公開審査会において発表していただき、1件程度、助成先を決定します。

お問い合せ先:株式会社四国銀行 お客さまサポート部 信託担当　TEL 088-871-2226

四国銀行コメント

株式会社四国銀行
お客さまサポート部　信託担当

四国銀行では、「高知市民の自主的なまちづくり活動を支援していく」という信託設定の趣旨に沿って助成事業を行います。受託者としてファンドの管理・運営を行うことにより、まちづくり活動の一端を担い、私たちみんなの大切な高知市をより住みやすいまち、豊かな地域社会にしていくためのお手伝いができるよう努めていきます。

私たちもお手伝いします。

高知市市民活動サポートセンターコメント

当サポートセンターでは、まちづくりファンドの申請に関する相談や、公開審査会等の運営のお手伝いをしています。皆さまのまちづくりに対する想いを実現できるよう、支援していきたいと考えています。まちづくりファンドの申請に関すること、また、まちづくり活動や市民活動に関すること等、いつでもお気軽にご相談ください。

まちづくりファンドは皆様がまちづくり活動を支援する仕組みです。

まちづくりファンドの創設にあたり、高知市から出捐(しゅつえん)された3,000万円は、毎年取り崩しながら助成していくことになります。少しでも永くまちづくりファンドが市民のまちづくり活動に活かせられるように、多くの皆さまのご寄付をお願い致します。

寄付に関するお問い合せは、
下記にご連絡ください。

株式会社　四国銀行
お客さまサポート部　信託担当

〒780-8605 高知市南はりまや町1丁目1-1

電話:088-871-2226(直通)

高知市市民活動サポートセンター

市民に利用していただき、市民活動の輪を広げようと、1999年4月に高知市が設置した施設です。運営を「特定非営利活動法人NPO高知市民会議」が担っており、ボランティアや市民活動に関する様々な相談や情報の提供、活動に必要な機器の利用や会議室の貸し出しにも応じています。仲間を広げたり、活動のお知らせをする掲示板や団体が利用できるメールボックスもあります。活動の参考になる講座等も開催していますので、お気軽にご活用ください。

今後のまちづくりファンド(予定)

審査会・発表会は、どなたでも参加することができます。まちづくり活動に関心のある方の交流の場として、お気軽にご参加ください。場所は、たかじょう庁舎6階大会議室を予定しております。

「まちづくりはじめの一歩」「まちづくり一歩前へ」コース

2010年度助成事業	
最終活動報告書の提出期限	7月5日(火)
最終発表会	7月30日(土)
2011年度助成事業	
応募受付期間	4月20日(水)～6月7日(火)
事前説明会	5月11日(水)・5月15日(日)
公開審査会	7月31日(日)

「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース

2010年度助成事業	
中間発表会	7月30日(土)
2011年度助成事業	
応募受付期間	4月20日(水)～6月7日(火)
事前説明会	5月11日(水)・5月15日(日)
第1次公開審査会	7月31日(日)

発　行	高知市市民活動サポートセンター

〒780-0862　高知市鷹匠町2丁目1-43　高知市たかじょう庁舎2階
TEL:088-820-1540　FAX:088-820-1665
E-mail:npokochi@siminkaigi.com　【URL】http://www.kochi-saposen.net/

まちファンとは、「まちづくりファンド」、「自分の住むまちのファンです」、「わたしのまちはおもしろい(ファン)」の3つの意味が込められています。